

「すぐれば 2002」(子供のやる気を引き出す通知表作成システム)

の実践と結果について

山形県最上郡戸沢村立角川小学校 加藤 卓

1. 通知表の実践・運用と改善・改訂

(1) 通知表の実践・運用と改善

マトリックス形式の通知表は、2001年から角川小学校1～6学年63名を対象に、実地検証を行った。膨大なデータの中の一つでも処理を間違ふことは許されないため、なによりも実践を通して信頼性を高め、改善することが大切であると考えた。子どもや保護者にとっては、初めてのマトリックス形式の通知表であるため、「通知表の見方のガイド」を作成した。また、保護者の意見を取り入れられるように、自由に要望を記述できる欄を設け、毎学期配布した。(図6)

初回から全員がスムーズに通知表を完成させた。成績処理・評定作業がそのまま通知表・考査作成を兼ね、子どもに補充指導する時間を作れるため、好評であった。

通知表の印刷は、B4サイズのケント紙に1999年製のプリンターを使って行った。クラス全員の集合写真をデータとして貼り付け、学級の温かさが伝わる表紙にした。15人のクラスの印刷所用時間は表裏の両面で40分である。40人学級なら印刷は両面でも約2時間で完了する。最新式ならば印刷はさらに短時間でできるだろう。

1学期の実践で、いくつかのリンクミスが見つかったため、修正を行いながら作業を行った。1

年生の1学期については、評価の信頼性を高めるために、1学期の後半の単元から評価することにした。

「平成14年度版 通知表」の見方のガイド

戸沢村立角川小学校

角川小学校では、最上郡で最も早く「通知表」の自校製版・印刷を行って来ました。見て分かりやすい通知表ならば、子供達の意欲と学力を更に高めることができます。今年度は、前年度より更に分かりやすい通知表を目指し、下のような形式に設定しました。ぜひ、この通知表を活用し、お子さんを励ましたり、休み中の復習に役立てたりしてください。これからも皆様のご意見を頂いて、更により通知表にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

1. 学習のようす

評価の見方	学習のねらい	評価	単元・題材ごとの達成度					総合	-
			単元1	単元2	単元3	単元4	単元5		
関心・意欲・態度	文章に関心をもち、読み書きしようとする	A							-
話す・聞く能力	分かりやすく話し、正しく聞くことができる	B							-
書く能力	分かりやすい文章を書くことができる	B							-
読む能力	文章を正しく読み取ることができる	B							-
言語について	文字や言葉の正しさを確かめることができる	A							-

「評価」とは、
 学んだこと全てについての四領域毎の評価です。
 「A」……よくできた
 「B」……できた
 「C」……がんばろう

「達成度」とは、
 学んだ所がどれくらい習得できたか表します。
 「」……よくできた 特に誉めたいところ
 「」……できた 誉めたいところ
 「」……がんばろう 復習させたいところ
 「」……達成度についての評定なし

学習した所(単元や題材)の名前を書いています。

「-」は、学ばず(単元や題材)が無いことを表します。

「-」は、評定をつけなかったところを指します。

ここは、ぜひ復習させたいところです。どんな問題が解けないかは、テストを見るとすぐにわかります。

図6 / 通知表の見方のガイド(一部)

Ms-Excelを一度も使ったことが無い先生は2名いたものの、数値とコメントの入力が主な作業であり、評定の吟味は判定基準を変えて仮評定を見ながらできるので、戸惑いも無かったという。

(2) 新教育課程対応2002年版への改訂

2002年には、指導要領の完全実施に対応するため、2ヶ月をかけて全面改訂を行った。

国語の観点、3年生の体育の観点、また、行動の評価について変更を行った。また、通知表の各項目、各教科の領域の文章表現について全面的に再検討を行った。更に、どの学校でも使用できるように、元データを入力するシートを充実させた。項目名や文章表現を通して各学校の独自性を出せるように、通知表の表・裏の形式の原版シートも付け足した。文の折り返しやフォントの表示が、単元名や所見などを入力するシートと通知表の製版のシートで同一に見えるように、セルの書式やフォントを再設定しなおした。どの学校でも使用できるように細かな改訂を繰り返してきた。

2. 保護者と子ども、学校の変化

(1) 保護者の声

保護者から寄せられたアンケートの記述を原文のまま記載する。

・「全体の評価だけでなく、各単元別にも評価されているので、自分の子どもの良い所、がんばらなければいけない所などがはっきりとわかるので、親子で話をするときもわかりやすく、相談もできるので、とても見やすいと思いました。」

・「今回の通知表は、本当に分かりやすく、よいところやかんばりが必要な所が何か良く分かりました。子どもにも具体的に『ここをがんばろうね』と言うことができました。」

・「前よりも関心をもって見ることができました。達成度図も大変わかりやすく、どういう勉強をしているのかもわかり、子どもと勉強話も楽しくできました。」

このように、マトリックス形式の通知表は、家庭学習についての会話や具体的なアドバイスができるため、保護者に大変好評である。

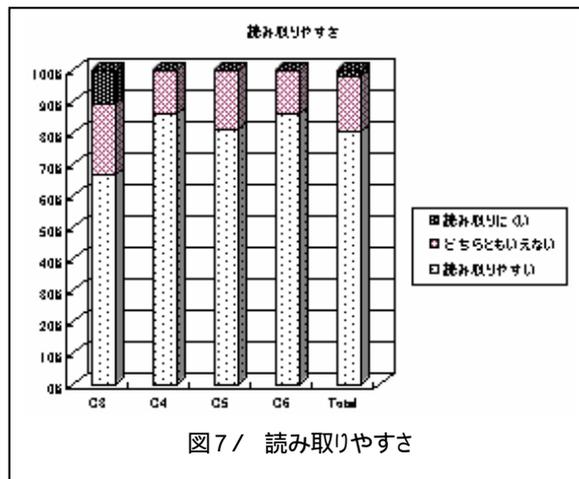
(2) 子どもの声と変容

従来の通知表を経験しているのが3年生以上であり、また、データの信頼性の面から、3年生以上46名を対象に2002年9月にアンケートを行った。項目は、

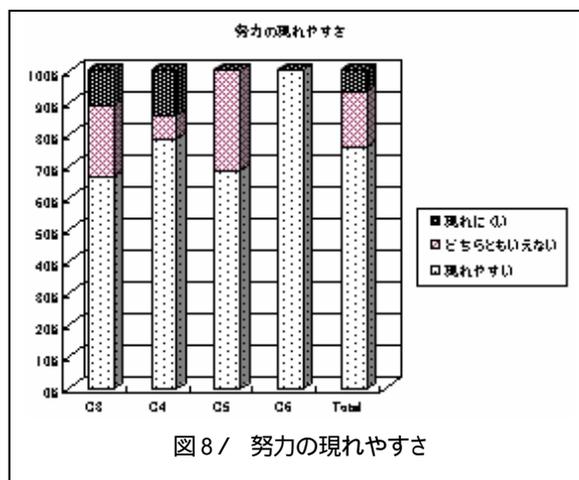
- 通知表の読み取りやすさ
- 努力の現れやすさ
- 点数化して評定する公平さ
- 通知表の活用による復習
- 手書きへのこだわり
- 自由筆記による感想

の6つである。集計は、学級(学年)毎に行った。しかし、学級経営や指導者の指導の違いが、大きな差として結果に現れている。

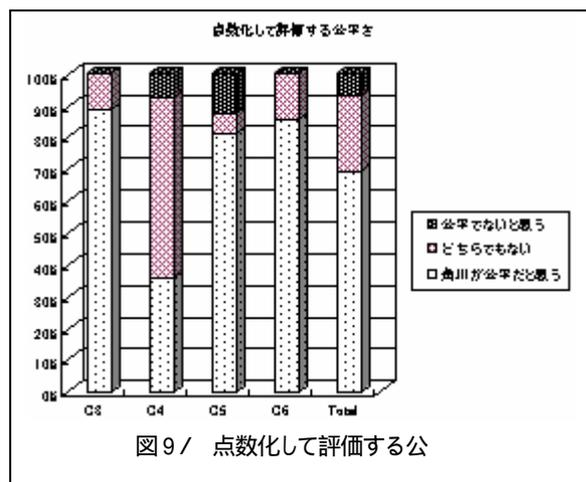
「読み取りやすさ」については、表を読み取る能力も関係するため、高学年ほど他の通知表に比べマトリックス形式の通知表の方が読み取りやすいと回答している。全体では80%が、マトリックス形式の方が見やすいとしている。(図7)



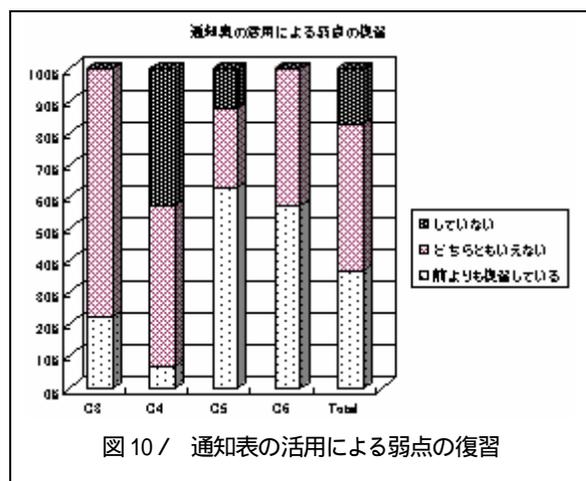
「努力の現れやすさ」では、マトリックス形式の通知表の方が努力が成果として現れやすいという回答は、全体の76%である。学年によってばらつきがあるが、ほぼ学年が進むにしたがい割合が多くなっている。(図8)



「点数化して評価する公平さ」については、70%の子どもが点数化のほうが公平であると回答している。得点化の方法を分かりやすく子どもに提示する必要があるだろう。また、学級(学年)によってばらつきがあるので、評価を信頼されるよう、指導者と子どもとの信頼関係の大切さを考慮していく必要があるだろう。(図9)

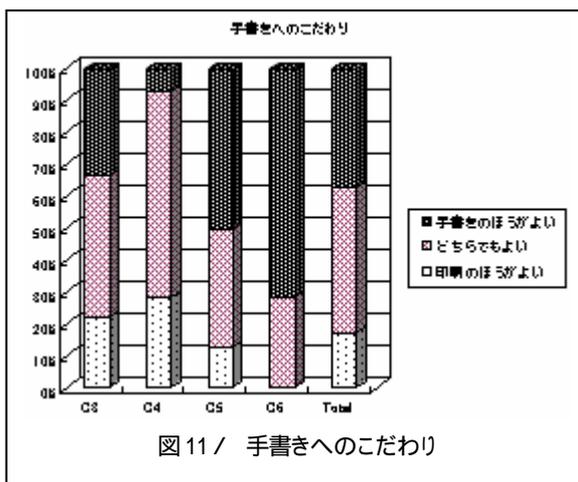


通知表の活用については、全体の37%の子どもが通知表を活用して復習したと回答した。ただ、これも学年による差が大きい。通知表が活用できることが、保護者や子どもによく説明できていないことも考えられる。手引きの配布だけにとどまらず、全ての学年で活用方法を詳しく伝えていく必要があるだろう。(図10)



「手書きへのこだわり」については、全体の17%の子どもが印刷のほうがよいと回答し、「どちらでもよい」を合わせれば63%となる。これも、学年によって差が大きい。傾向として、担任が発行し

ている「学級便り」が手書きのクラスは、手書きがよいとする割合が高かった。逆に、「学級便り」がワープロの学級では、印刷のほうがよいという割合が高くなっている。日ごろから活字の印刷物を見慣れると活字を好むようになるとも解釈できる結果であるので、調査を継続する必要がある。(図11)



自由筆記の主な感想は、以下のようにになっている。原文のまま記載する。()内の数は、同様の記述人数で、全体の記述数は43である。なお、マトリックス形式の通知表を以後Sと記述する。

「分かりやすさ」についての記述(39)
 「他の学校の通知表は、教科書のないようがくわしく書いてないから、どの勉強がとくいかわかりにくい。.....4年」

「私は、他の学校の通知表より、Sのほうがとてもわかりやすいと思います。理由は、自分がどういうことを一番できたとか、もっとがんばったほうがよいというのがわかるからです。.....6年」

「他の学校にくらべると、Sの方の通知表の方がいいです。わけは、他の学校は全体から見て決めるけど、Sはこまくわかりやすく書いているから、わかりやすいです。わるいところはないです。...6年」

「復習などの活用」についての記述(4)
 「各教科ごとはだしているので、まえよりも自分のよわいところをふくしゅうできるようになったと思います。.....6年」

「前は、どのへんがわるいのかくわしくわかん

かったから、家の人もどこをちゅういたらいいかわかんなかったけど、今のはとつてもわかりやすくて、どこらへんをなおしたらいいかわかっていいです。……6年」

「関心や意欲」に関する記述(3)

「Sは、見やすくて、たのしい。……4年」

「Sの方は、こまかくわかるから、がんばろうと思うからSのほうがいいです。……5年」

「印刷」についての記述(2)

「印刷のほうがいいです。……4年」

「Sの通知表は、細かいけれど自分が復習しなければならないところがすごく分かっていいです。それに、コメントも印刷だからとってもいいです。……6年」

以上のように、マトリクス形式の通知表は、子どもにも大変好評である。

(3) 学校の変化

子どもの学習や生活に対する姿勢が変化してきた。この通知表を実施してから、学校生活に積極的に取り組む子どもが多くなってきている。特に、漢字や計算などへの努力は成績の変化として現れやすく、懸命に学習するようになってきた。

今までは、「Aが何個、 が何個。」という見方しかできなかった子どもが、学習内容の到達度を注目するようになってきた。長期の休みには、思うように自分でできなかった単元を復習する子どもも増えてきている。

担任の先生の感想を以下に示す。

・「通知表の製版は、学習進度や単元変更のために変更が必要になるので、以前は学期末の一ヶ月前から通知表の作成作業を行わなければならず、とても大変だった。今は、通知表づくりもなく、学習が終わり次第評価をすればよいので、子どもとゆっくりと向き合える。」

・「前は、毎日夜遅くまで通信簿つけをしなければならず、スタンプや清書で手が痛かった。今は、忙しい学期末でも子どもを残して個別指導ができるゆとりがある。」

・「新しい子どもたちを担任しても、前年度の考査

簿で学習の様子が分かるので、指導しやすくなった。」

・「パソコンが苦手で大変だと思っていたら、入力すれば仮評価も通知表も考査簿までできてしまう。子どもをよく観察して数値化しなければならないので、一人ひとりを前よりずっと見つめるようになった。子どもの学習の様子について他の先生とも、よく話し合うようになった。子どもたちもやれば成績が上がるので、やる気を出す子が増えてきた。」

このように、指導時間の確保に悩む現場の指導者からも、通知表自動作成システムは、好評である。

また、学校の成績処理および通知表・考査簿作成の仕事の内容が、予想以上に合理化できた。

担任は、成績処理と評価決定、通知表作成が同時に進行するので省力化・効率化した。所見等は、表現や誤記を管理職のチェックを受けるが、下書きも訂正もパソコンを使うので省力化できる。通知表、考査簿とも印刷で行うため、スタンプ押印、清書作業がなくなった。通知表印刷の前日まで、子ども達に納得いくまで補充指導し、最も高まった成績を通知表に記載できる。

管理職にとっては、通知表の製版・改訂作業が省力化できた。所見のチェックでは、大きな変更も可能になった。通知表と考査簿が同一であるので、転載違いをチェックする必要がなく、誤記のチェックだけに集中すればよくなった。このように、大幅に省力化・効率化が進んだ。

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 学習した単元毎に細かく評価されているので、子どもも保護者も読み取りやすい。到達度が時系列で並んで表示されているので、子どもの成長や変化も読み取れる。保護者も子どもも通知表を活用し、子どもは自主的に復習することが可能になる。指導要領の観点別の評価を保護者に理解してもらうことにつながる。
- ・ 効率化・省力化により軽減された労力や時間

は、教師の本業であるやる気を育て、できるようにする支援・指導や心を育てる取り組みとして子どもに還元できる。

- ・ 個別指導を充実させ、最高に高めた成績をリアルタイムに通知表に記載できる。努力が評定の向上という形で現れやすく、認められるため、子ども達は、積極的に学習に取り組むように変化してきた。
- ・ 数値化により、公平公正な成績処理が行える。指導要録と通知表に矛盾が生じない。指導要録と通知表の記載が観点別を中心にした同じ形式であるため、関連が分かり、将来の指導要録開示の際にも、信頼関係が保てる。また、考査簿が指導に役立つようになる。

このように、マトリックス形式の通知表は、子どものやる気を引き出すだけでなく、教育活動全体に改善をもたらしている。

(2) 課題

実践を通し、新たな課題が見えてきた。

- ・ 学期初めの単元の評価が伝えられるのは、3ヶ月も経過し通知表が配付されてからである。単元終了直後に、リアルタイムで子どもの努力を保護者に伝え、子どもを認め励ますように、指導者が心がける必要がある。
- ・ 新入生の保護者や子どもは、マトリックス形式の通知表の経験がない。通知表の活用方法については、今後とも具体例を交えて更に説明していく必要がある。
- ・ 公平・公正な評価には、数値化の方法を明示していかなければならない。現在は、年間指導計画・評価規準と評価を連動するシステムを開発している。
- ・ 教育活動の根幹は、子どもと指導者との信頼関係である。したがって、たとえ完全な評価規準・基準があり、それらが明示されていようとも、信頼関係が低いままではうまく機能しない。これは、評価についても根本問題であり、教育活動全般に影響することであるので、特に大切に考えていく必要がある。

4. おわりに

2002年に改訂した通知表の名称は、従来の形式の通知表より子供のやる気を引き出すなど多くの面で優れ、リアルタイムの通知表(school report)という特徴が分かるように『すぐれば』と銘々した。

PC やプリンターを使った通知表を味気なく感じる人がいるかもしれないが、印刷会社でプリントされた通知表には実現不可能な、約5倍の情報量としての子どもの成長を願う真心が込められている。文字のデザインから空白スペースの大きさに至るまで、全てが心を込めた手作りである。だからこそ、子どもにも保護者にも現場の教職員にも強く支持されたのだと感じている。

また、平成15年度からは、戸沢村内の小学校で実施できるように研修会を行っている。子供のやる気を引き出す通知表が、広がりを見せ始めている。今後も改善を重ね、生き生きと学ぶ子どもの育成を目指していきたい。